

第26回（令和4年度第1回）
セーフコミュニティ 自殺予防対策委員会

《会 議 次 第》

日時：令和4年5月23日（月） 15:00～

場所：久留米市役所 16階会議室

1. 報告事項

- （1）今後の主なスケジュールについて（資料1）
- （2）セーフコミュニティに関する実態調査及び市民意識調査の結果について
（資料2、3）

2. 協議事項

- （1）2021（令和3）年度実績及び2022（令和4）年度方針（案）について（資料4）
- （2）再々認証事前指導のプレゼン資料（案）について（資料5）
- （3）広報啓発について（資料6）

3. その他

- （1）合同対策委員会におけるワークシートについて（資料7）

令和4年度 自殺予防対策委員会 名簿

No	団体	氏名	役職	備考
1	学校法人 久留米大学	内村 直尚	学長	
2	(一社)久留米医師会	大治 太郎	聖ルチア病院 院長	
3	久留米市民生委員児童委員協議会	別府 問人	南校区 会長	
4	久留米市校区まちづくり連絡協議会	寺崎 雅生	荘島校区会長	
5	グリーンコープ生活協同組合ふくおか	樋口 哲也	グリーンコープ生活再生相談室 久留米相談室 部長	
6	久留米広域消防本部	棚町 政一	救急防災課 課長補佐	
7	(特非)依存症から市民を守る会	石井 清	理事長	
8	(社福)久留米市社会福祉協議会	漆原 数弥	地域福祉課 課長	
9	久留米警察署	赤木 秀雄	総務第二課 課長	
10	久留米市協働推進部消費生活センター	吉村 栄作	所長	
11	久留米市健康福祉部生活支援第2課	大下 央之	課長	
12	久留米市こども子育てサポートセンター	清水 知子	所長	
13	久留米市商工観光労働部労政課	岡村 貴子	商工観光労働部労政課 課長	
14	久留米市教育部学校教育課	新谷 祥生	指導主幹	
15	久留米市健康福祉部保健所保健予防課	田中 浩之	課長	

1. 報告事項 (1) 今後の主なスケジュールについて(資料1)
セーフコミュニティ年間スケジュール【令和4年度～令和5年度】

※セーフコミュニティ国際認証(再々認証)の取得を想定した場合のスケジュール

業 務		R4年度												R5年度											
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
SC推進組織						● 調整 会議	● 本部 会議	● ①推進協議会 ・R3実績R4方針 ・事前指導の内容・日程 ・プレゼン資料		再々 認証 事前 指導	年間活動 報告書				● 調整 会議	● 本部 会議	● ①推進協議会 ・R4実績R5方針 ・現地審査の内容・日程 ・プレゼン資料 ・申請書提出(7月)		再々 認証 現地 審査	(本番) ②推進協議会			● 協議会委員の改選	年間活動 報告書	
対策委員会		対策 合同 委員会		5～6月中旬 ①対策委員会 ・R3実績R4方針 ・事前指導の内容・日程 ・ワークショップ ・ <u>プレゼン資料案</u>		7月下旬～8月 ①対策委員会 (正副委員長) ・事前指導に向けて ・ <u>プレゼン資料(最終)</u>	● 委員の改選		本番直前 委員長リハ		(本番) ②対策委員会	③対策委員会 ・ワークショップ ・事前指導の講評 について			4月20日頃まで ①対策委員会 ・R4実績R5方針 ・現地審査の内容・日程 ・ワークショップ ・ <u>プレゼン資料案</u>			本番直前 委員長リハ		(本番) ②対策委員会	R5年度内に開催 ③対策委員会 ・現地審査の講評について			再々 認証 式典・SC フェスタ	
外傷等 動向調査委員会		書面開催		①外傷委員会 ・各対策委員会の 状況報告 ・ <u>プレゼン資料(案)</u>		①外傷委員会 (正副委員長) ・事前指導に向けて ・ <u>プレゼン資料(最終)</u>	● 委員の改選		本番直前 委員長リハ		(本番) ②外傷委員会	③外傷委員会 ・事前指導の講評 について			4月20日頃まで ①外傷委員会 ・各対策委員会の 状況報告 ・ <u>プレゼン資料(案)</u>			本番直前 委員長リハ		(本番) ②外傷委員会	R5年度内に開催 ③外傷委員会 ・現地審査の講評について				
申請書									(案) 申請書 申請書作成準備		12月～1月 申請書(案)作成		JISCと調整	3月 [各事務局] ・加筆修正	JISCとの調整期間 2回目(最終) 4月末 日本語版 確定	5月 英訳	6月 申請書 提出								
プレゼン資料						対策委員会後 プレゼン資料 提出 ⇒JISCと調整①		JISCと 調整②(最終) 9月末 日本語版 確定	英訳 10月末 英訳版 完成				2～4月 現地指導に向けて プレゼン資料修正 JISCと調整		JISCとの 調整期間(最終) 5月末 日本語版 確定	英訳 7月 日本語版・ 英訳版 完成									
広報	You tube				外傷		防犯		交通安全		防災		自殺予防		DV防止		児童虐待 防止		学校安全		高齢者の 安全				
	広報 くるめ					外傷		防犯		交通安全		防災		自殺予防		DV防止		児童虐待 防止		学校安全		高齢者の 安全			
	SC 通信				標語募集	外傷		防犯		交通安全		防災		自殺予防		DV防止		児童虐待 防止		学校安全		高齢者の 安全			

久留米市

セーフコミュニティに関する実態調査

報告書



令和 3 年 10 月

久留米市

久留米市セーフコミュニティに関する実態調査報告書について

1. 久留米市セーフコミュニティに関する実態調査

(1) 調査の目的

ケガや事故の予防を目的とした市民、関係機関、団体との協働による「セーフコミュニティ」活動に取り組むことにより、「みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり」を目指している。本調査は、本市のセーフコミュニティの取り組みの基礎資料として、市民の経験や考えなどを把握するため

(2) 調査の概要

- * 調査対象者・・・久留米市に在住する 15 歳以上の男女 2,500 人
- * 抽出方法・・・住民基本台帳から、層化二段無作為抽出
- * 調査方法・・・調査票を郵送し、郵送又はインターネットで回収を行う
- * 調査期間・・・令和 3 年 6 月 16 日～6 月 30 日
- * 回収数（率）・・・1,275 票（51.0%）
内、郵送 983 票、インターネット 292 票

(3) 調査テーマ

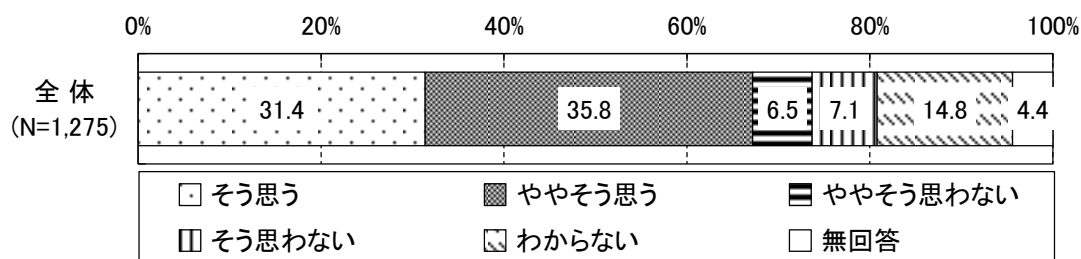
- ①「主なケガ」について
- ②「安全・安心の取り組み」について
- ③「交通安全」について
- ④「児童虐待防止」について
- ⑤「高齢者の安全」について
- ⑥「DV 防止」について
- ⑦「犯罪の防止・防犯力の向上」について
- ⑧「自殺予防」について
- ⑨「防災」について
- ⑩「その他」

(1) 自殺について思うこと

問 20. 「自殺はその多くが防ぐことのできる社会的な問題である」ということについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○はひとつ)

「自殺はその多くが防ぐことのできる社会的な問題である」と思う人は7割弱

- 「自殺はその多くが防ぐことのできる社会的な問題である」について、「ややそう思う」が35.8%で最も高い。



【属性別特徴】

- 「ややそう思う」の割合を性別・年代別でみると、女性・30～49歳、女性・55～64歳が、全体の割合に比べて高い。
- 「そう思う」の割合を性別・年代別でみると、男性・40～49歳、男性・55～59歳、男性・80歳以上、女性・50～54歳が、全体の割合に比べて高い。
- 「ややそう思わない」の割合を性別・年代別でみると、女性・40～44歳が全体の割合に比べて高い。
- 「ややそう思う」の割合をブロック別でみると、北部Aが全体の割合に比べて高い。
- 「そう思う」の割合をブロック別でみると、東部A、西部Aが、全体の割合に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

			サンプル数	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
全 体			1,275 100.0	400 31.4	457 35.8	83 6.5	90 7.1	189 14.8	56 4.4
性別	男性		491 100.0	176 35.8	167 34.0	34 6.9	41 8.4	59 12.0	14 2.9
	女性		766 100.0	221 28.9	284 37.1	48 6.3	47 6.1	127 16.6	39 5.1
性別・年代別	15～19歳	男性	21 100.0	6 28.6	7 33.3	3 14.3	2 9.5	2 9.5	1 4.8
		女性	27 100.0	16 59.3	8 29.6	2 7.4	0 0.0	1 3.7	0 0.0
	20～24歳	男性	18 100.0	6 33.3	4 22.2	2 11.1	4 22.2	2 11.1	0 0.0
		女性	24 100.0	5 20.8	9 37.5	4 16.7	4 16.7	2 8.3	0 0.0
	25～29歳	男性	17 100.0	9 52.9	4 23.5	2 11.8	2 11.8	0 0.0	0 0.0
		女性	28 100.0	15 53.6	8 28.6	1 3.6	4 14.3	0 0.0	0 0.0
	30～34歳	男性	19 100.0	4 21.1	8 42.1	3 15.8	3 15.8	1 5.3	0 0.0
		女性	38 100.0	7 18.4	17 44.7	4 10.5	5 13.2	5 13.2	0 0.0
	35～39歳	男性	33 100.0	9 27.3	13 39.4	5 15.2	4 12.1	2 6.1	0 0.0
		女性	59 100.0	17 28.8	25 42.4	4 6.8	5 8.5	8 13.6	0 0.0
	40～44歳	男性	32 100.0	13 40.6	12 37.5	3 9.4	2 6.3	2 6.3	0 0.0
		女性	71 100.0	19 26.8	29 40.8	10 14.1	7 9.9	6 8.5	0 0.0
	45～49歳	男性	43 100.0	17 39.5	16 37.2	3 7.0	4 9.3	3 7.0	0 0.0
		女性	61 100.0	15 24.6	30 49.2	6 9.8	4 6.6	6 9.8	0 0.0
	50～54歳	男性	40 100.0	14 35.0	16 40.0	2 5.0	3 7.5	5 12.5	0 0.0
		女性	50 100.0	19 38.0	16 32.0	5 10.0	3 6.0	7 14.0	0 0.0
	55～59歳	男性	35 100.0	16 45.7	11 31.4	4 11.4	1 2.9	3 8.6	0 0.0
		女性	63 100.0	18 28.6	35 55.6	2 3.2	2 3.2	5 7.9	1 1.6
	60～64歳	男性	56 100.0	20 35.7	22 39.3	2 3.6	5 8.9	7 12.5	0 0.0
		女性	65 100.0	16 24.6	30 46.2	5 7.7	1 1.5	13 20.0	0 0.0
	65～69歳	男性	46 100.0	16 34.8	17 37.0	2 4.3	5 10.9	3 6.5	3 6.5
		女性	75 100.0	19 25.3	29 38.7	3 4.0	1 1.3	21 28.0	2 2.7
	70～74歳	男性	61 100.0	18 29.5	17 27.9	3 4.9	3 4.9	17 27.9	3 4.9
		女性	87 100.0	25 28.7	29 33.3	0 0.0	3 3.4	23 26.4	7 8.0
	75～79歳	男性	29 100.0	10 34.5	10 34.5	0 0.0	1 3.4	6 20.7	2 6.9
		女性	53 100.0	13 24.5	8 15.1	1 1.9	4 7.5	12 22.6	15 28.3
	80歳以上	男性	36 100.0	16 44.4	9 25.0	0 0.0	1 2.8	6 16.7	4 11.1
		女性	62 100.0	16 25.8	9 14.5	1 1.6	5 6.5	18 29.0	14 22.6

◆表 ブロック別◆

		サンプル数	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
全 体		1,275 100.0	400 31.4	457 35.8	83 6.5	90 7.1	189 14.8	56 4.4
ブロック別	東部A	91 100.0	34 37.4	25 27.5	3 3.3	6 6.6	18 19.8	5 5.5
	東部B	80 100.0	25 31.3	30 37.5	5 6.3	5 6.3	12 15.0	3 3.8
	北部A	113 100.0	32 28.3	51 45.1	7 6.2	7 6.2	15 13.3	1 0.9
	北部B	72 100.0	20 27.8	27 37.5	3 4.2	6 8.3	12 16.7	4 5.6
	中央東部	140 100.0	42 30.0	43 30.7	20 14.3	7 5.0	20 14.3	8 5.7
	南東部	108 100.0	34 31.5	41 38.0	5 4.6	10 9.3	12 11.1	6 5.6
	中央部	177 100.0	46 26.0	70 39.5	15 8.5	14 7.9	26 14.7	6 3.4
	中央南部	205 100.0	71 34.6	74 36.1	13 6.3	14 6.8	27 13.2	6 2.9
	南西部	125 100.0	38 30.4	43 34.4	6 4.8	12 9.6	21 16.8	5 4.0
	西部A	55 100.0	22 40.0	13 23.6	2 3.6	2 3.6	11 20.0	5 9.1
	西部B	74 100.0	26 35.1	24 32.4	3 4.1	5 6.8	11 14.9	5 6.8

【設問間別特徴】

- 「そう思う」の割合を「ゲートキーパー」の認知状況別でみると、ゲートキーパーの研修を受けたことがある、研修を受講したいと思う人が、全体の割合に比べて高い。

◆表 「ゲートキーパー」の認知状況別◆

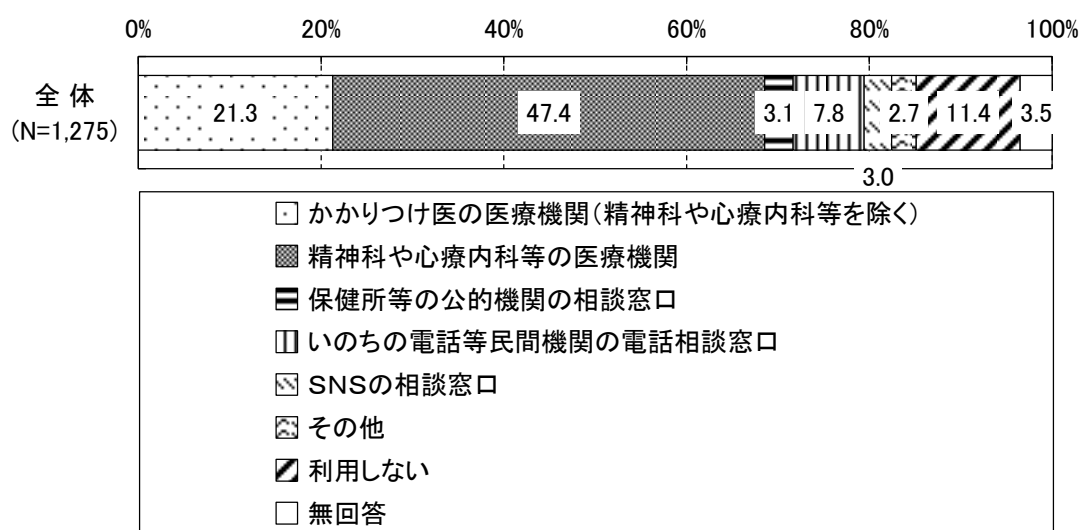
		サ ン プ ル 数	そ う 思 う	や や そ う 思 う	や や そ う 思 わ ない	そ う 思 わ ない	わ か ら ない	無 回 答
	全 体	1,275 100.0	400 31.4	457 35.8	83 6.5	90 7.1	189 14.8	56 4.4
「ゲートキーパー」の 認知状況別	ゲートキーパー研修を受けたことがあり、知っている	20 100.0	12 60.0	7 35.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	0 0.0
	名称を聞いたことがあり、研修を受講したいと思う	26 100.0	13 50.0	9 34.6	2 7.7	2 7.7	0 0.0	0 0.0
	名称を聞いたことがあるが、研修を受講したいとは思わない	99 100.0	34 34.3	43 43.4	13 13.1	3 3.0	5 5.1	1 1.0
	名称を聞いたことはないが、研修を受講したいと思う	71 100.0	30 42.3	26 36.6	6 8.5	7 9.9	2 2.8	0 0.0
	名称を聞いたことはなく、研修を受講したいとも思わない	80 100.0	19 23.8	33 41.3	7 8.8	9 11.3	10 12.5	2 2.5
	名称を聞いたことはなく、何かよくわからない	901 100.0	278 30.9	331 36.7	51 5.7	62 6.9	159 17.6	20 2.2

(2) こころの病を感じたときに利用したい専門窓口

問 21. あなたは、もし、ご自身がこころの病を感じたとき、どの専門窓口を利用したいと思いますか。(〇はひとつ)

利用したい専門窓口は、「精神科や心療内科等の医療機関」が 5 割弱

- こころの病を感じたときに利用したい専門窓口について、「精神科や心療内科等の医療機関」が 47.4%で最も高い。



【属性別特徴】

- 「精神科や心療内科等の医療機関」の割合を性別・年代別でみると、男性・40～49 歳、女性・35～64 歳が、全体の割合に比べて高い。
- 「かかりつけの医療機関」の割合を性別・年代別でみると、男性・70～74 歳、男性・80 歳以上、女性・70 歳以上が、全体の割合に比べて高い。
- 「精神科や心療内科等の医療機関」の割合をブロック別でみると、北部 B、西部 B が、全体の割合に比べて高い。
- 「かかりつけの医療機関」の割合をブロック別でみると、南東部、西部 A が、全体の割合に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

			サ ン プ ル 数	除 (精 神 科 や 心 療 内 科 等 を 関 連 機 関 と し て 考 え ら れ な い 機 関)	か か り つ け 医 療 機 関 等 の 機 関)	精 神 科 や 心 療 内 科 等 の 機 関)	保 健 所 等 の 公 的 機 関 の 機 関)	い の ち の 電 話 相 談 窓 口 等 民 間 機 関 の 機 関)	S N S の 相 談 窓 口 等 民 間 機 関 の 機 関)	そ の 他 の 機 関)	利 用 し な い 機 関)	無 回 答 機 関)
全 体			1,275 100.0	271 21.3	604 47.4	39 3.1	99 7.8	38 3.0	35 2.7	145 11.4	44 3.5	
性 別	男性		491 100.0	110 22.4	221 45.0	15 3.1	38 7.7	18 3.7	11 2.2	64 13.0	14 2.9	
	女性		766 100.0	156 20.4	379 49.5	23 3.0	60 7.8	19 2.5	22 2.9	79 10.3	28 3.7	
性 別 ・ 年 代 別	15～19歳	男性	21 100.0	5 23.8	6 28.6	0 0.0	1 4.8	4 19.0	0 0.0	5 23.8	0 0.0	
		女性	27 100.0	7 25.9	10 37.0	1 3.7	5 18.5	1 3.7	2 7.4	1 3.7	0 0.0	
	20～24歳	男性	18 100.0	2 11.1	5 27.8	0 0.0	2 11.1	4 22.2	1 5.6	4 22.2	0 0.0	
		女性	24 100.0	2 8.3	13 54.2	1 4.2	2 8.3	1 4.2	0 0.0	5 20.8	0 0.0	
	25～29歳	男性	17 100.0	3 17.6	4 23.5	1 5.9	3 17.6	0 0.0	2 11.8	4 23.5	0 0.0	
		女性	28 100.0	2 7.1	16 57.1	1 3.6	1 3.6	3 10.7	1 3.6	4 14.3	0 0.0	
	30～34歳	男性	19 100.0	3 15.8	11 57.9	2 10.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 15.8	0 0.0	
		女性	38 100.0	5 13.2	17 44.7	1 2.6	1 2.6	4 10.5	2 5.3	8 21.1	0 0.0	
	35～39歳	男性	33 100.0	5 15.2	17 51.5	1 3.0	1 3.0	2 6.1	3 9.1	4 12.1	0 0.0	
		女性	59 100.0	6 10.2	34 57.6	2 3.4	4 6.8	3 5.1	1 1.7	8 13.6	1 1.7	
	40～44歳	男性	32 100.0	2 6.3	21 65.6	1 3.1	3 9.4	2 6.3	0 0.0	2 6.3	1 3.1	
		女性	71 100.0	11 15.5	44 62.0	1 1.4	6 8.5	2 2.8	0 0.0	7 9.9	0 0.0	
	45～49歳	男性	43 100.0	7 16.3	23 53.5	1 2.3	4 9.3	4 9.3	0 0.0	4 9.3	0 0.0	
		女性	61 100.0	4 6.6	39 63.9	2 3.3	2 3.3	3 4.9	2 3.3	9 14.8	0 0.0	
	50～54歳	男性	40 100.0	9 22.5	19 47.5	2 5.0	3 7.5	0 0.0	0 0.0	7 17.5	0 0.0	
		女性	50 100.0	6 12.0	30 60.0	0 0.0	8 16.0	1 2.0	2 4.0	3 6.0	0 0.0	
	55～59歳	男性	35 100.0	6 17.1	18 51.4	2 5.7	2 5.7	2 5.7	1 2.9	4 11.4	0 0.0	
		女性	63 100.0	8 12.7	33 52.4	2 3.2	12 19.0	0 0.0	0 0.0	7 11.1	1 1.6	
	60～64歳	男性	56 100.0	11 19.6	29 51.8	0 0.0	9 16.1	0 0.0	1 1.8	5 8.9	1 1.8	
		女性	65 100.0	12 18.5	36 55.4	2 3.1	4 6.2	0 0.0	3 4.6	7 10.8	1 1.5	
	65～69歳	男性	46 100.0	8 17.4	18 39.1	2 4.3	7 15.2	0 0.0	2 4.3	6 13.0	3 6.5	
		女性	75 100.0	15 20.0	35 46.7	0 0.0	9 12.0	1 1.3	5 6.7	8 10.7	2 2.7	
	70～74歳	男性	61 100.0	21 34.4	20 32.8	1 1.6	2 3.3	0 0.0	0 0.0	14 23.0	3 4.9	
		女性	87 100.0	31 35.6	40 46.0	2 2.3	3 3.4	0 0.0	3 3.4	6 6.9	2 2.3	
	75～79歳	男性	29 100.0	13 44.8	16 55.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
		女性	53 100.0	25 47.2	13 24.5	3 5.7	0 0.0	0 0.0	1 1.9	3 5.7	8 15.1	
	80歳以上	男性	36 100.0	13 36.1	12 33.3	2 5.6	1 2.8	0 0.0	1 2.8	2 5.6	5 13.9	
		女性	62 100.0	22 35.5	17 27.4	5 8.1	3 4.8	0 0.0	0 0.0	3 4.8	12 19.4	

◆表 ブロック別◆

		サンプル数	除く（精神科や心療内科等を関	かかりつけ医の医療機関を関	医療機関	精神科や心療内科等の	保健所等の公的機関の相談窓口	いのちの電話相談窓口等民間機関	SNSの相談窓口	その他	利用しない	無回答
全 体		1,275 100.0	271 21.3	604 47.4	39 3.1	99 7.8	38 3.0	35 2.7	145 11.4	44 3.5		
ブロック別	東部 A	91 100.0	21 23.1	45 49.5	3 3.3	6 6.6	0 0.0	2 2.2	9 9.9	5 5.5		
	東部 B	80 100.0	17 21.3	34 42.5	0 0.0	10 12.5	2 2.5	2 2.5	10 12.5	5 6.3		
	北部 A	113 100.0	20 17.7	50 44.2	6 5.3	14 12.4	7 6.2	3 2.7	12 10.6	1 0.9		
	北部 B	72 100.0	12 16.7	38 52.8	1 1.4	11 15.3	0 0.0	0 0.0	8 11.1	2 2.8		
	中央東部	140 100.0	30 21.4	66 47.1	5 3.6	11 7.9	2 1.4	1 0.7	20 14.3	5 3.6		
	南東部	108 100.0	30 27.8	45 41.7	4 3.7	6 5.6	2 1.9	5 4.6	14 13.0	2 1.9		
	中央部	177 100.0	34 19.2	91 51.4	8 4.5	10 5.6	7 4.0	5 2.8	16 9.0	6 3.4		
	中央南部	205 100.0	42 20.5	106 51.7	5 2.4	14 6.8	5 2.4	7 3.4	19 9.3	7 3.4		
	南西部	125 100.0	28 22.4	49 39.2	4 3.2	11 8.8	6 4.8	4 3.2	19 15.2	4 3.2		
	西部 A	55 100.0	15 27.3	26 47.3	0 0.0	3 5.5	1 1.8	2 3.6	4 7.3	4 7.3		
	西部 B	74 100.0	12 16.2	43 58.1	1 1.4	1 1.4	4 5.4	2 2.7	9 12.2	2 2.7		

【設問間別特徴】

- 「精神科や心療内科等の医療機関」の割合を自殺願望又は自殺未遂の経験別でみると、自殺したいと思ったことがある人が全体の割合に比べて高い。
- 「利用しない」の割合を自殺願望又は自殺未遂の経験別でみると、自殺未遂の経験がある人が全体の割合に比べて高い。
- 「精神科や心療内科等の医療機関」の割合を「ゲートキーパー」の認知状況別でみると、名称を聞いたことはないが、研修を受講したいと思う、名称を聞いたことはなく、研修を受講しようとも思わない人が、全体の割合に比べて高い。

◆表 自殺願望又は自殺未遂の経験別◆

	サンプル数	除く（精神科や心療内科等の医療機関を問	精神科や心療内科等の医療機関	保健所等の公的機関の相談窓口	いのちの電話相談窓口等民間機関	SNSの相談窓口	その他	利用しない	無回答
全 体	1,275 100.0	271 21.3	604 47.4	39 3.1	99 7.8	38 3.0	35 2.7	145 11.4	44 3.5
は自殺願望又は自殺未遂の経験別	自殺未遂の経験がある	28 100.0	4 14.3	11 39.3	1 3.6	2 7.1	2 0.0	8 28.6	0 0.0
	自殺したいと思ったことがある	291 100.0	43 14.8	156 53.6	7 2.4	23 7.9	9 3.1	8 2.7	44 15.1
	自殺したいと思ったことがない	906 100.0	215 23.7	428 47.2	30 3.3	74 8.2	27 3.0	27 3.0	90 9.9

◆表 「ゲートキーパー」の認知状況別◆

	サンプル数	除く（精神科や心療内科等の医療機関を問	精神科や心療内科等の医療機関	保健所等の公的機関の相談窓口	いのちの電話相談窓口等民間機関	SNSの相談窓口	その他	利用しない	無回答
全 体	1,275 100.0	271 21.3	604 47.4	39 3.1	99 7.8	38 3.0	35 2.7	145 11.4	44 3.5
「ゲートキーパー」の認知状況別	ゲートキーパー研修を受けたことがあり、知っている	20 100.0	5 25.0	7 35.0	5 25.0	2 10.0	0 0.0	1 5.0	0 0.0
	名称を聞いたことがあり、研修を受講したいと思う	26 100.0	4 15.4	18 69.2	0 0.0	1 3.8	1 0.0	2 7.7	0 0.0
	名称を聞いたことがあるが、研修を受講したいとは思わない	99 100.0	22 22.2	47 47.5	3 3.0	7 7.1	3 3.0	2 2.0	14 14.1
	名称を聞いたことはないが、研修を受講したいと思う	71 100.0	7 9.9	39 54.9	5 7.0	9 12.7	4 5.6	2 2.8	5 7.0
	名称を聞いたことはなく、研修を受講したいとは思わない	80 100.0	19 23.8	44 55.0	1 1.3	7 8.8	0 0.0	0 0.0	6 7.5
	名称を聞いたことはなく、何かよくわからない	901 100.0	190 21.1	431 47.8	23 2.6	71 7.9	30 3.3	29 3.2	113 12.5

(3) 医療機関や相談窓口を利用しない理由

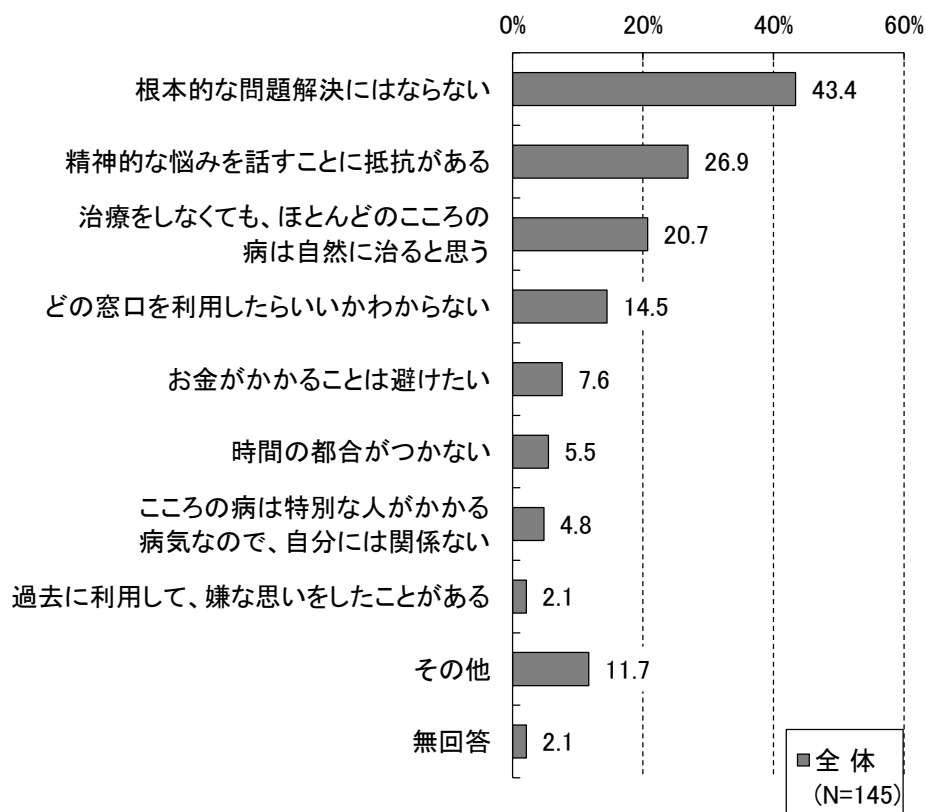
【問 21 で、「7」と回答された方にお聞きします。】

問 21-1. あなたが、医療機関や相談窓口を利用しない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに

○)

医療機関や相談窓口を利用しない理由は「根本的な問題解決にはならないから」が 4 割強、「精神的な悩みを話すことに抵抗がある」が 3 割弱

- 医療機関や相談窓口を利用しない理由について、「根本的な解決にはならないから」が 43.4%で最も高い。
- その他の内訳について、「信頼できる人に相談したり、日頃から予防している」や「家族に相談」、「知り合いがいるかもしれないので利用できない」などの意見がみられた。



【属性別特徴】

- 「治療をしなくても、ほとんどのこころの病は自然に治ると思う」の割合を性別でみると、男性が高い。

◆表 性別・年代別◆

		サンプル数	根本的な問題解決にはならない	精神的な悩みを話すことに抵抗がある	治療をしなくても、ほとんどのこころの病は自然に治ると思う	どの窓口を利用したらいいかわからない	お金がかかることは避けたい	時間の都合がつかない	こころの病は特別な人がかかる病気なので、自分には関係ない	過去に利用して、嫌な思いをしたことがある	その他	無回答	
全 体		145 100.0	63 43.4	39 26.9	30 20.7	21 14.5	11 7.6	8 5.5	7 4.8	3 2.1	17 11.7	3 2.1	
性別	男性	64 100.0	29 45.3	16 25.0	20 31.3	5 7.8	3 4.7	3 4.7	7 10.9	1 1.6	6 9.4	1 1.6	
	女性	79 100.0	34 43.0	22 27.8	9 11.4	16 20.3	8 10.1	5 6.3	0 0.0	2 2.5	11 13.9	2 2.5	
性別・年代別	15～19歳	男性	5 100.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20～24歳	男性	4 100.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
		女性	5 100.0	2 40.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
	25～29歳	男性	4 100.0	3 75.0	2 50.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
		女性	4 100.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～34歳	男性	3 100.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	8 100.0	4 50.0	2 25.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0
	35～39歳	男性	4 100.0	3 75.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	8 100.0	1 12.5	2 25.0	0 0.0	2 25.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	3 37.5	0 0.0
	40～44歳	男性	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
		女性	7 100.0	6 85.7	1 14.3	0 0.0	1 14.3	2 28.6	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	45～49歳	男性	4 100.0	3 75.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	9 100.0	4 44.4	3 33.3	0 0.0	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 22.2	0 0.0
	50～54歳	男性	7 100.0	1 14.3	0 0.0	1 14.3	1 14.3	1 14.3	0 0.0	1 14.3	1 14.3	2 28.6	0 0.0
		女性	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	55～59歳	男性	4 100.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	7 100.0	2 28.6	1 14.3	0 0.0	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0
	60～64歳	男性	5 100.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	7 100.0	3 42.9	2 28.6	2 28.6	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	65～69歳	男性	6 100.0	2 33.3	3 50.0	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	8 100.0	4 50.0	4 50.0	3 37.5	2 25.0	1 12.5	2 25.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0
	70～74歳	男性	14 100.0	6 42.9	4 28.6	6 42.9	1 7.1	0 0.0	0 0.0	2 14.3	0 0.0	0 0.0	1 7.1
		女性	6 100.0	0 0.0	3 50.0	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7
	75～79歳	男性	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	80歳以上	男性	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
		女性	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3

【設問間別特徴】

- 「お金がかかることは避けたい」の割合を自殺願望又は自殺未遂の経験別でみると、自殺したいと思ったことがある人が全体の割合に比べて高い。

◆表 自殺願望又は自殺未遂の経験別◆

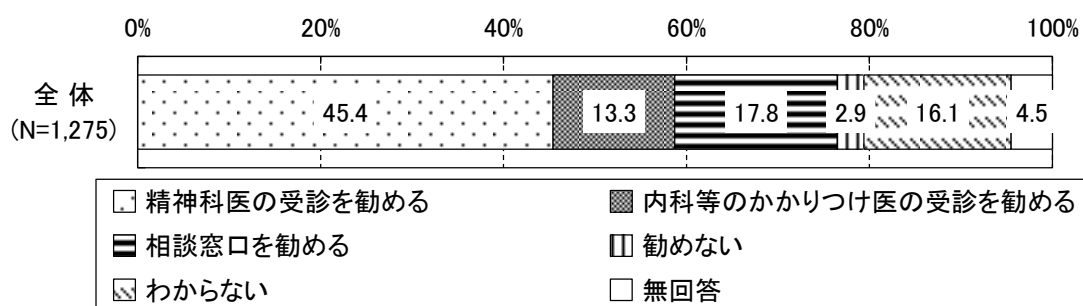
	サンプル数	根本的な問題解決にはならない	が精神的な悩みを話すことに抵抗	治療をしながらも、ほとんどの	わからの窓口を利用したらいいか	お金がかかることは避けたい	時間の都合がつかない	病気の病は特別な人がかか	した過去に利用して、嫌な思いを	その他	無回答
全 体	145 100.0	63 43.4	39 26.9	30 20.7	21 14.5	11 7.6	8 5.5	7 4.8	3 2.1	17 11.7	3 2.1
は自殺願望又は自殺未遂の経験別	自殺未遂の経験がある	8 100.0	4 50.0	2 25.0	2 25.0	2 25.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0
	自殺したいと思ったことがある	44 100.0	19 43.2	14 31.8	6 13.6	3 6.8	7 15.9	1 2.3	0 0.0	2 11.4	5 2.3
	自殺したいと思ったことがない	90 100.0	39 43.3	21 23.3	21 23.3	16 17.8	2 2.2	5 5.6	6 6.7	1 1.1	1 1.1

(4) 家族や知人のこころの病を知ったときの対応

問 22. あなたは、家族や知人がこころの病を知ったとき、医療機関や相談窓口へ行くことを勧めますか。(〇はひとつ)

こころの病の疑いがある家族や知人に、「精神科医の受診を勧める」人は5割弱

- こころの病の疑いがある家族や知人に医療機関や相談窓口を勧めるかについて、「精神科医の受診を勧める」が45.4%で最も高い。



【属性別特徴】

- 「精神科の受診を勧める」の割合を性別・年代別でみると、男性・35～44歳、男性・50～59歳、女性・30～39歳、女性・45～54歳が、全体の割合に比べて高い。
- 「相談窓口を勧める」の割合を性別・年代別でみると、男性・65～69歳、女性・75～79歳が、全体の割合に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

		サ ン プ ル 数	精 神 科 医 の 受 診 を 勧 め る	内 科 等 の か かり つ け 医 生	相 談 窓 口 を 勧 め る	勧 め な い	わ か ら な い	無 回 答	
全 体		1,275 100.0	579 45.4	169 13.3	227 17.8	37 2.9	205 16.1	58 4.5	
性 別	男性	491 100.0	232 47.3	62 12.6	92 18.7	16 3.3	76 15.5	13 2.6	
	女性	766 100.0	342 44.6	104 13.6	131 17.1	19 2.5	127 16.6	43 5.6	
性 別 ・ 年 代 別	15～19歳	男性	21 100.0	6 28.6	4 19.0	6 28.6	0 0.0	5 23.8	0 0.0
		女性	27 100.0	12 44.4	1 3.7	8 29.6	0 0.0	6 22.2	0 0.0
	20～24歳	男性	18 100.0	8 44.4	0 0.0	5 27.8	0 0.0	5 27.8	0 0.0
		女性	24 100.0	14 58.3	2 8.3	3 12.5	1 4.2	4 16.7	0 0.0
	25～29歳	男性	17 100.0	7 41.2	2 11.8	4 23.5	0 0.0	4 23.5	0 0.0
		女性	28 100.0	20 71.4	2 7.1	2 7.1	0 0.0	4 14.3	0 0.0
	30～34歳	男性	19 100.0	12 63.2	1 5.3	3 15.8	2 10.5	1 5.3	0 0.0
		女性	38 100.0	23 60.5	2 5.3	4 10.5	4 10.5	5 13.2	0 0.0
	35～39歳	男性	33 100.0	19 57.6	3 9.1	4 12.1	2 6.1	5 15.2	0 0.0
		女性	59 100.0	35 59.3	6 10.2	5 8.5	4 6.8	8 13.6	1 1.7
	40～44歳	男性	32 100.0	22 68.8	1 3.1	4 12.5	0 0.0	5 15.6	0 0.0
		女性	71 100.0	33 46.5	11 15.5	13 18.3	2 2.8	12 16.9	0 0.0
	45～49歳	男性	43 100.0	21 48.8	2 4.7	9 20.9	1 2.3	10 23.3	0 0.0
		女性	61 100.0	34 55.7	4 6.6	9 14.8	4 6.6	10 16.4	0 0.0
	50～54歳	男性	40 100.0	21 52.5	3 7.5	6 15.0	2 5.0	8 20.0	0 0.0
		女性	50 100.0	27 54.0	9 18.0	9 18.0	2 4.0	3 6.0	0 0.0
	55～59歳	男性	35 100.0	19 54.3	3 8.6	7 20.0	1 2.9	5 14.3	0 0.0
		女性	63 100.0	28 44.4	6 9.5	12 19.0	0 0.0	17 27.0	0 0.0
	60～64歳	男性	56 100.0	28 50.0	9 16.1	10 17.9	1 1.8	5 8.9	3 5.4
		女性	65 100.0	29 44.6	9 13.8	10 15.4	0 0.0	16 24.6	1 1.5
	65～69歳	男性	46 100.0	15 32.6	5 10.9	13 28.3	3 6.5	7 15.2	3 6.5
		女性	75 100.0	29 38.7	16 21.3	16 21.3	0 0.0	12 16.0	2 2.7
	70～74歳	男性	61 100.0	25 41.0	13 21.3	8 13.1	4 6.6	9 14.8	2 3.3
		女性	87 100.0	30 34.5	15 17.2	15 17.2	2 2.3	15 17.2	10 11.5
	75～79歳	男性	29 100.0	13 44.8	7 24.1	6 20.7	0 0.0	2 6.9	1 3.4
		女性	53 100.0	12 22.6	10 18.9	13 24.5	0 0.0	6 11.3	12 22.6
	80歳以上	男性	36 100.0	14 38.9	7 19.4	7 19.4	0 0.0	5 13.9	3 8.3
		女性	62 100.0	14 22.6	11 17.7	11 17.7	0 0.0	9 14.5	17 27.4

【設問間別特徴】

- 「精神科医の受診を勧める」の割合を「ゲートキーパー」の認知状況別でみると、ゲートキーパーの名称を聞いたことはないが、研修を受講したいと思う人、研修を受講したいとも思わない人が、全体の割合に比べて高い。
- 「相談窓口を勧める」の割合を「ゲートキーパー」の認知状況別でみると、ゲートキーパーの名称を聞いたことはないが、研修を受講したいと思う人が、全体の割合に比べて高い。

◆表 「ゲートキーパー」の認知状況別◆

	サ ン プ ル 数	精 神 科 医 の 受 診 を 勧 め る	内 科 等 の 受 診 を 勧 め る か け り つ け 医	相 談 窓 口 を 勧 め る	勧 め な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	1,275 100.0	579 45.4	169 13.3	227 17.8	37 2.9	205 16.1	58 4.5
「ゲートキーパー」の 認知状況別	ゲートキーパー研修を受けたことがあり、知っている	20 100.0	7 35.0	3 15.0	8 40.0	1 5.0	1 0.0
	名称を聞いたことがあり、研修を受講したいと思う	26 100.0	16 61.5	6 23.1	3 11.5	1 3.8	0 0.0
	名称を聞いたことがあるが、研修を受講したいとは思わない	99 100.0	49 49.5	20 20.2	18 18.2	2 2.0	9 9.1
	名称を聞いたことはないが、研修を受講したいと思う	71 100.0	37 52.1	5 7.0	21 29.6	1 1.4	7 9.9
	名称を聞いたことはなく、研修を受講したいとも思わない	80 100.0	42 52.5	5 6.3	14 17.5	4 5.0	12 15.0
	名称を聞いたことはなく、何かよくわからない	901 100.0	410 45.5	124 13.8	156 17.3	28 3.1	163 18.1
							20 2.2

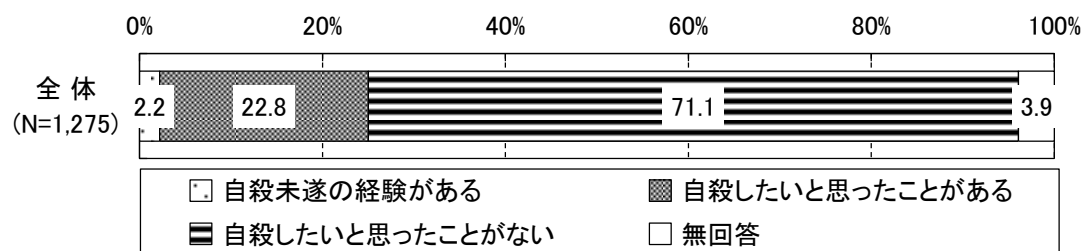
（５） 自殺願望又は自殺未遂の経験

問 23. あなたは、これまでの人生の中で、自殺したいと思った又は自殺未遂の経験がありますか。

（○はひとつ）

「自殺未遂の経験がある」又は「自殺したいと思ったことがある」人は３割弱

●自殺願望又は自殺未遂の経験について、「自殺したいと思ったことがない」が 71.1% で最も高い。



【属性別特徴】

●「自殺したいと思ったことがない」の割合を性別・年代別でみると、男性・35～39 歳、男性・45～54 歳、男性・60～69 歳、女性・55～59 歳、女性・65～69 歳が、全体の割合に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

			サ ン プ ル 数	自 殺 未 遂 の 経 験 が あ る	こ と 自 殺 し た い と 思 っ た	こ と 自 殺 し た い と 思 っ た	無 回 答
全 体			1,275 100.0	28 2.2	291 22.8	906 71.1	50 3.9
性 別	男性		491 100.0	8 1.6	110 22.4	361 73.5	12 2.4
	女性		766 100.0	20 2.6	177 23.1	534 69.7	35 4.6
性 別 ・ 年 代 別	15～19歳	男性	21 100.0	1 4.8	5 23.8	15 71.4	0 0.0
		女性	27 100.0	0 0.0	4 14.8	23 85.2	0 0.0
	20～24歳	男性	18 100.0	1 5.6	7 38.9	10 55.6	0 0.0
		女性	24 100.0	0 0.0	6 25.0	18 75.0	0 0.0
	25～29歳	男性	17 100.0	1 5.9	5 29.4	11 64.7	0 0.0
		女性	28 100.0	1 3.6	11 39.3	16 57.1	0 0.0
	30～34歳	男性	19 100.0	0 0.0	4 21.1	15 78.9	0 0.0
		女性	38 100.0	3 7.9	14 36.8	21 55.3	0 0.0
	35～39歳	男性	33 100.0	0 0.0	6 18.2	27 81.8	0 0.0
		女性	59 100.0	2 3.4	25 42.4	32 54.2	0 0.0
	40～44歳	男性	32 100.0	0 0.0	10 31.3	22 68.8	0 0.0
		女性	71 100.0	3 4.2	21 29.6	47 66.2	0 0.0
	45～49歳	男性	43 100.0	0 0.0	9 20.9	34 79.1	0 0.0
		女性	61 100.0	2 3.3	17 27.9	42 68.9	0 0.0
	50～54歳	男性	40 100.0	0 0.0	8 20.0	32 80.0	0 0.0
		女性	50 100.0	4 8.0	9 18.0	37 74.0	0 0.0
	55～59歳	男性	35 100.0	1 2.9	14 40.0	20 57.1	0 0.0
		女性	63 100.0	1 1.6	13 20.6	49 77.8	0 0.0
	60～64歳	男性	56 100.0	2 3.6	8 14.3	45 80.4	1 1.8
		女性	65 100.0	2 3.1	12 18.5	49 75.4	2 3.1
	65～69歳	男性	46 100.0	0 0.0	8 17.4	35 76.1	3 6.5
		女性	75 100.0	1 1.3	13 17.3	60 80.0	1 1.3
	70～74歳	男性	61 100.0	2 3.3	14 23.0	40 65.6	5 8.2
		女性	87 100.0	1 1.1	16 18.4	63 72.4	7 8.0
	75～79歳	男性	29 100.0	0 0.0	2 6.9	26 89.7	1 3.4
		女性	53 100.0	0 0.0	5 9.4	37 69.8	11 20.8
	80歳以上	男性	36 100.0	0 0.0	9 25.0	25 69.4	2 5.6
		女性	62 100.0	0 0.0	10 16.1	38 61.3	14 22.6

【設問間別特徴】

- 「自殺をしたいと思っただことがない」の割合をこころの病気を感じたときに利用したい専門窓口別でみると、こころの病気を感じたときに、かかりつけ医の医療機関、保健所等の公的機関の相談窓口を利用したい人が、全体の割合に比べて高い。
- 「自殺をしたいと思っただことがある」の割合をこころの病気を感じたときに利用したい専門窓口別でみると、こころの病気を感じたときに、相談機関を利用しない人が、全体の割合に比べて高い。

◆表 こころの病気を感じたときに利用したい専門窓口別◆

	サ ン プ ル 数	自 殺 未 遂 の 経 験 が あ る	こ と が あ る と 思 っ た	こ と 自 殺 し た い と 思 っ た	無 回 答
全 体	1,275 100.0	28 2.2	291 22.8	906 71.1	50 3.9
こ こ ろ の 病 気 を 感 じ た と き に 専 門 窓 口 別	かかりつけ医の医療機関 (精神科や心療内科等を除く)	271 100.0	4 1.5	43 15.9	215 79.3
	精神科や心療内科等の医療機関	604 100.0	11 1.8	156 25.8	428 70.9
	保健所等の公的機関の相談窓口	39 100.0	1 2.6	7 17.9	30 76.9
	いのちの電話等民間機関の 電話相談窓口	99 100.0	2 2.0	23 23.2	74 74.7
	SNSの相談窓口	38 100.0	2 5.3	9 23.7	27 71.1
	その他	35 100.0	0 0.0	8 22.9	27 77.1
	利用しない	145 100.0	8 5.5	44 30.3	90 62.1
					3 2.1

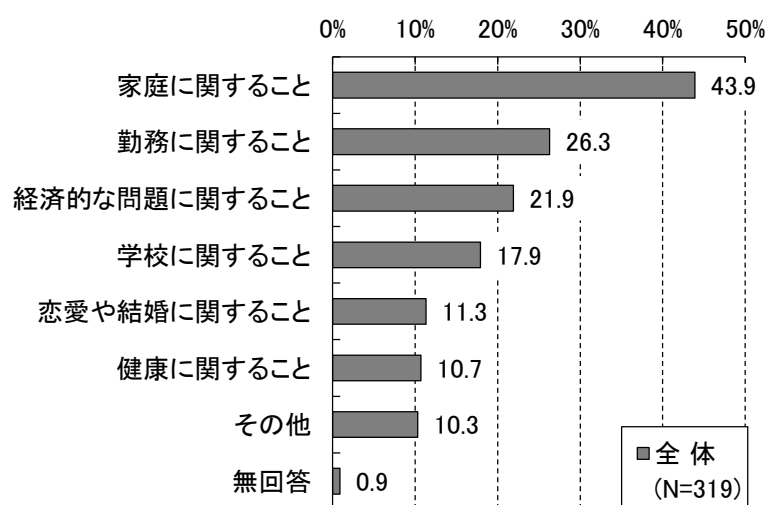
(6) 自殺したいと思った原因

【問 23 で、「1」又は「2」と回答された方にお聞きします。】

問 23-1. あなたが、自殺したいと思った原因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

自殺したいと思った原因は、「家庭に関すること」が 4 割強

- 自殺したいと思った原因について、「家庭に関すること」が 43.9%で最も高く、次いで「勤務に関すること」が 26.3%と続く。
- その他の内訳について、「自分の存在価値」や「人間関係」、「うつ病になったから」などの意見がみられた。



【属性別特徴】

- 「勤務に関すること」、「経済的な問題に関すること」の割合を性別でみると、男性が高い。
- 「家庭に関すること」の割合を性別でみると、女性が高い。

◆表 性別・年代別◆

			サ ン プ ル 数	家 庭 に 関 す る こ と	勤 務 に 関 す る こ と	と 経 済 的 な 問 題 に 関 す る こ と	学 校 に 関 す る こ と	恋 愛 や 結 婚 に 関 す る こ と	健 康 に 関 す る こ と	そ の 他	無 回 答
全 体			319 100.0	140 43.9	84 26.3	70 21.9	57 17.9	36 11.3	34 10.7	33 10.3	3 0.9
性別	男性		118 100.0	33 28.0	50 42.4	37 31.4	16 13.6	5 4.2	13 11.0	8 6.8	1 0.8
	女性		197 100.0	105 53.3	34 17.3	33 16.8	40 20.3	31 15.7	20 10.2	25 12.7	2 1.0
性別・年代別	15～19歳	男性	6 100.0	3 50.0	1 16.7	0 0.0	4 66.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0
		女性	4 100.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20～24歳	男性	8 100.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	3 37.5	0 0.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0
		女性	6 100.0	4 66.7	1 16.7	1 16.7	3 50.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0
	25～29歳	男性	6 100.0	1 16.7	3 50.0	2 33.3	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	12 100.0	8 66.7	4 33.3	2 16.7	3 25.0	3 25.0	0 0.0	1 8.3	0 0.0
	30～34歳	男性	4 100.0	1 25.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	17 100.0	5 29.4	6 35.3	0 0.0	4 23.5	4 23.5	1 5.9	5 29.4	0 0.0
	35～39歳	男性	6 100.0	2 33.3	4 66.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0
		女性	27 100.0	15 55.6	2 7.4	3 11.1	10 37.0	5 18.5	2 7.4	3 11.1	0 0.0
	40～44歳	男性	10 100.0	4 40.0	5 50.0	8 80.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
		女性	24 100.0	12 50.0	7 29.2	6 25.0	6 25.0	9 37.5	2 8.3	3 12.5	0 0.0
	45～49歳	男性	9 100.0	0 0.0	7 77.8	5 55.6	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0
		女性	19 100.0	10 52.6	6 31.6	4 21.1	3 15.8	4 21.1	0 0.0	4 21.1	0 0.0
	50～54歳	男性	8 100.0	1 12.5	5 62.5	2 25.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0
		女性	13 100.0	8 61.5	2 15.4	4 30.8	2 15.4	1 7.7	1 7.7	1 7.7	0 0.0
	55～59歳	男性	15 100.0	7 46.7	8 53.3	3 20.0	1 6.7	1 6.7	2 13.3	1 6.7	0 0.0
		女性	14 100.0	8 57.1	2 14.3	3 21.4	3 21.4	1 7.1	2 14.3	1 7.1	0 0.0
	60～64歳	男性	10 100.0	4 40.0	1 10.0	4 40.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	14 100.0	9 64.3	0 0.0	0 0.0	1 7.1	1 7.1	3 21.4	2 14.3	0 0.0
	65～69歳	男性	8 100.0	1 12.5	4 50.0	0 0.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	0 0.0	0 0.0
		女性	14 100.0	9 64.3	1 7.1	2 14.3	0 0.0	1 7.1	3 21.4	1 7.1	0 0.0
	70～74歳	男性	16 100.0	5 31.3	6 37.5	5 31.3	0 0.0	1 6.3	2 12.5	4 25.0	1 6.3
		女性	17 100.0	8 47.1	1 5.9	4 23.5	1 5.9	1 5.9	3 17.6	1 5.9	1 5.9
	75～79歳	男性	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0
		女性	5 100.0	2 40.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0
	80歳以上	男性	9 100.0	2 22.2	1 11.1	3 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 33.3	0 0.0
		女性	10 100.0	4 40.0	1 10.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0

【設問間別特徴】

- 「健康に関すること」の割合をこころの病気を感じたときに利用したい専門窓口別でみると、こころの病気を感じたときに、かかりつけ医の医療機関を利用したい人が、全体の割合に比べて高い。

◆表 こころの病気を感じたときに利用したい専門窓口別◆

	サンプル数	家庭に関すること	勤務に関すること	経済的な問題に関すること	学校に関すること	恋愛や結婚に関すること	健康に関すること	その他	無回答
全 体	319 100.0	140 43.9	84 26.3	70 21.9	57 17.9	36 11.3	34 10.7	33 10.3	3 0.9
こころの病気を感じたときに利用したい専門窓口別	かかりつけ医の医療機関 (精神科や心療内科等を除く)	47 100.0	19 40.4	11 23.4	6 12.8	4 8.5	1 2.1	9 19.1	4 0.0
	精神科や心療内科等の医療機関	167 100.0	73 43.7	48 28.7	41 24.6	29 17.4	25 15.0	14 8.4	18 1.2
	保健所等の公的機関の相談窓口	8 100.0	4 50.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0
	いのちの電話等民間機関の 電話相談窓口	25 100.0	15 60.0	4 16.0	10 40.0	6 24.0	2 8.0	2 8.0	1 4.0
	SNSの相談窓口	11 100.0	7 63.6	2 18.2	1 9.1	4 36.4	2 18.2	0 0.0	0 0.0
	その他	8 100.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	3 37.5	1 12.5	2 25.0	0 0.0
	利用しない	52 100.0	21 40.4	15 28.8	10 19.2	11 21.2	4 7.7	5 9.6	10 19.2
									1 1.9

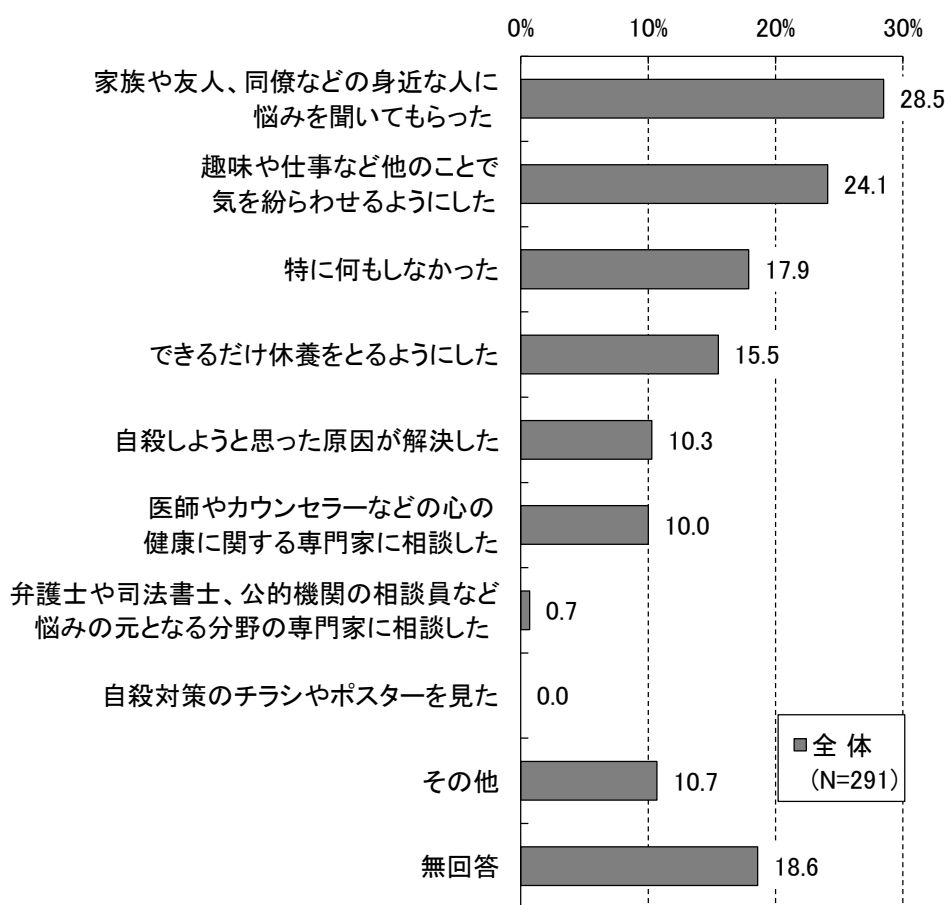
(7) 自殺を思いとどまった要因

【問 23 で、「2」と回答された方にお聞きします。】

問 23-2. あなたが、自殺を思いとどまった要因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「家族や友人、同僚などの身近な人に悩みを聞いてもらった」人は 3 割弱

- 自殺を思いとどまった原因について、「家族や友人、同僚などの身近な人に悩みを聞いてもらった」が 28.5%で最も高い。
- その他の内訳について、「母や子どものため」といった意見がみられた。



【属性別特徴】

- 「家族や友人、同僚などの身近な人に悩みを聞いてもらった」の割合を性別・年代別でみると、男性・15～19 歳、男性・40～44 歳、男性・60～64 歳、女性・15～19 歳、女性・30～39 歳、女性・60～64 歳、女性・75 歳以上が、全体の割合に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

			サンプル数	家族や友人、同僚などの身近な人に悩みを聞いてもらった	趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるようにした	特に何もしなかった	できるだけ休養をとるようにした	自殺しようと思った原因が解決した	した健康に関する専門家に相談した	医師やカウンセラーなどの心の相談員など悩みの元となる分野の専門家に相談した	弁護士や司法書士、公的機関の相談員など悩みの元となる	自殺対策のチラシやポスターを見た	その他	無回答
全 体			291 100.0	83 28.5	70 24.1	52 17.9	45 15.5	30 10.3	29 10.0	2 0.7	0 0.0	31 10.7	54 18.6	
性別	男性		110 100.0	26 23.6	31 28.2	22 20.0	20 18.2	10 9.1	13 11.8	1 0.9	0 0.0	9 8.2	21 19.1	
	女性		177 100.0	56 31.6	39 22.0	29 16.4	25 14.1	20 11.3	16 9.0	1 0.6	0 0.0	22 12.4	31 17.5	
性別・年代別	15～19歳	男性	5 100.0	2 40.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
		女性	4 100.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20～24歳	男性	7 100.0	1 14.3	2 28.6	4 57.1	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	6 100.0	2 33.3	1 16.7	1 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 33.3	
	25～29歳	男性	5 100.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0
		女性	11 100.0	2 18.2	1 9.1	3 27.3	2 18.2	3 27.3	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 18.2	1 9.1
	30～34歳	男性	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
		女性	14 100.0	5 35.7	2 14.3	2 14.3	2 14.3	0 0.0	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 28.6	3 21.4
	35～39歳	男性	6 100.0	2 33.3	1 16.7	2 33.3	3 50.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 16.7
		女性	25 100.0	9 36.0	5 20.0	4 16.0	5 20.0	4 16.0	5 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 16.0	2 8.0
	40～44歳	男性	10 100.0	4 40.0	4 40.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0
		女性	21 100.0	6 28.6	7 33.3	3 14.3	5 23.8	2 9.5	1 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 18.2	3 14.3
	45～49歳	男性	9 100.0	3 33.3	2 22.2	1 11.1	1 11.1	0 0.0	3 33.3	1 11.1	1 0.0	0 0.0	2 22.2	1 11.1
		女性	17 100.0	3 17.6	5 29.4	2 11.8	4 23.5	1 5.9	1 5.9	1 5.9	0 0.0	0 0.0	3 17.6	2 11.8
	50～54歳	男性	8 100.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	3 37.5	2 25.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 12.5
		女性	9 100.0	2 22.2	3 33.3	2 22.2	2 22.2	3 33.3	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	55～59歳	男性	14 100.0	4 28.6	5 35.7	0 0.0	3 21.4	0 0.0	2 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.1	4 28.6
		女性	13 100.0	1 7.7	2 15.4	3 23.1	1 7.7	2 15.4	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.7	3 23.1
	60～64歳	男性	8 100.0	3 37.5	1 12.5	0 0.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 37.5
		女性	12 100.0	8 66.7	1 8.3	1 8.3	0 0.0	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 25.0	2 16.7
	65～69歳	男性	8 100.0	2 25.0	3 37.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	2 25.0
		女性	13 100.0	4 30.8	2 15.4	2 15.4	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 30.8
	70～74歳	男性	14 100.0	2 14.3	4 28.6	5 35.7	2 14.3	3 21.4	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 14.3	2 14.3
		女性	16 100.0	3 18.8	5 31.3	3 18.8	2 12.5	1 6.3	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 18.8	4 25.0
	75～79歳	男性	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0
		女性	5 100.0	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
	80歳以上	男性	9 100.0	1 11.1	3 33.3	2 22.2	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 22.2
		女性	10 100.0	4 40.0	3 30.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0

【設問間別特徴】

- 「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるようにした」の割合をこころの病気を感じたときに利用したい専門窓口別でみると、こころの病気を感じたときに、かかりつけ医の医療機関を利用したい人が、全体の割合に比べて高い。

◆表 こころの病気を感じたときに利用したい専門窓口別◆

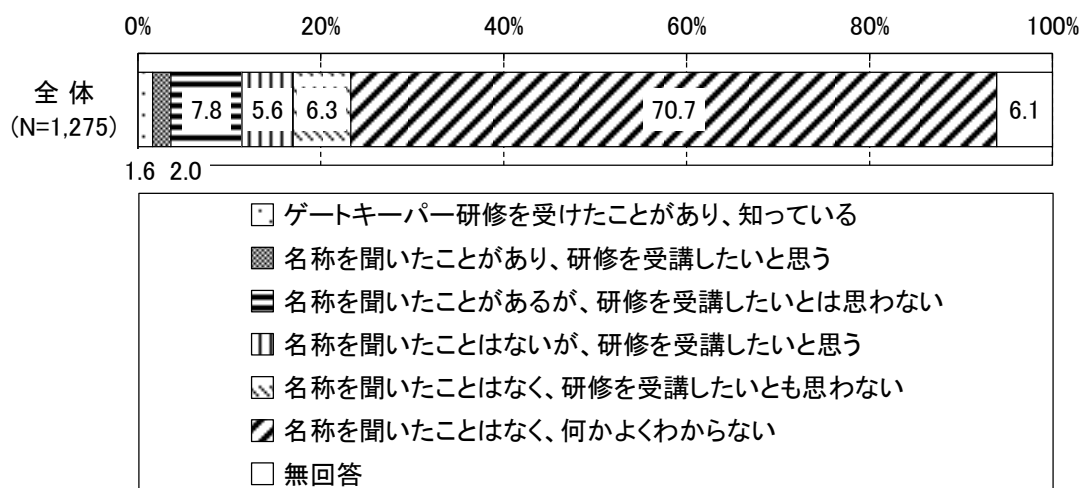
		サンプル数	家族や友人、同僚などの身近な人に悩みを聞いてもらった	趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるようにした	特に何もしなかった	できるだけ休養をとるようにした	自殺しようと思った原因が解決した	医師やカウンセラーなどの心の健康に関する専門家に相談した	弁護士や司法書士、公的機関の相談員など悩みの元となる分野の専門家に相談した	自殺対策のチラシやポスターを見た	その他	無回答
全 体		291 100.0	83 28.5	70 24.1	52 17.9	45 15.5	30 10.3	29 10.0	2 0.7	0 0.0	31 10.7	54 18.6
こころの病気を 感じたときに 利用したい専門 窓口別	かかりつけ医の医療機関 （精神科や心療内科等を除く）	43 100.0	11 25.6	14 32.6	7 16.3	6 14.0	2 4.7	2 4.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 23.3
	精神科や心療内科等の医療機関	156 100.0	51 32.7	40 25.6	22 14.1	31 19.9	22 14.1	25 16.0	1 0.6	0 0.0	19 12.2	24 15.4
	保健所等の公的機関の相談窓口	7 100.0	3 42.9	1 14.3	0 0.0	2 28.6	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 57.1
	いのちの電話等民間機関の 電話相談窓口	23 100.0	8 34.8	7 30.4	5 21.7	4 17.4	0 0.0	1 4.3	0 0.0	0 0.0	1 4.3	4 17.4
	S N Sの相談窓口	9 100.0	3 33.3	0 0.0	2 22.2	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	2 22.2
	その他	8 100.0	3 37.5	2 25.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	2 25.0
	利用しない	44 100.0	4 9.1	6 13.6	16 36.4	2 4.5	4 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 20.5	7 15.9

(8) 「ゲートキーパー」の認知状況

問 24. あなたは、「ゲートキーパー」について知っていますか。(○はひとつ)

ゲートキーパーの名称も内容も知らない人は 7 割強

- 「ゲートキーパー」の認知度について、「名称を聞いたことはなく、何かよくわからない」が 70.7% で最も高い。



【属性別特徴】

- 「名称を聞いたことはなく、何かよくわからない」の割合を性別・年代別でみると、男性・45～49 歳、男性・60～64 歳、女性・40～44 歳、女性・65～69 歳が、全体の割合に比べて高い。
- 「名称を聞いたことはなく、何かよくわからない」の割合をブロック別でみると、東部 A、北部 A、南西部が、全体の割合に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

		サンプル数	ゲートキーパー研修を受けたことがあり、知っている	研修名称を聞いたことがあり、研修を受講したと思う	研修名称を聞いたことがあり、研修を受講したと思うが、知らない	研修名称を聞いたことはないが、研修を受講したと思う	研修名称を聞いたことはないが、研修を受講したと思うが、知らない	研修名称を聞いたことはないが、研修を受講したと思うが、知らない	研修名称を聞いたことはないが、研修を受講したと思うが、知らない	研修名称を聞いたことはないが、研修を受講したと思うが、知らない	研修名称を聞いたことはないが、研修を受講したと思うが、知らない	無回答
全 体		1,275 100.0	20 1.6	26 2.0	99 7.8	71 5.6	80 6.3	901 70.7	78 6.1			
性別	男性	491 100.0	10 2.0	9 1.8	43 8.8	24 4.9	33 6.7	346 70.5	26 5.3			
	女性	766 100.0	10 1.3	16 2.1	53 6.9	45 5.9	46 6.0	548 71.5	48 6.3			
性別・年代別	15～19歳	男性	21 100.0	0 0.0	0 0.0	2 9.5	1 4.8	0 0.0	18 85.7	0 0.0		
		女性	27 100.0	0 0.0	0 0.0	1 3.7	1 3.7	1 3.7	23 85.2	1 3.7		
	20～24歳	男性	18 100.0	0 0.0	1 5.6	5 27.8	0 0.0	1 5.6	11 61.1	0 0.0		
		女性	24 100.0	0 0.0	2 8.3	3 12.5	1 4.2	0 0.0	18 75.0	0 0.0		
	25～29歳	男性	17 100.0	2 11.8	0 0.0	3 17.6	1 5.9	0 0.0	11 64.7	0 0.0		
		女性	28 100.0	0 0.0	0 0.0	1 3.6	1 3.6	0 0.0	26 92.9	0 0.0		
	30～34歳	男性	19 100.0	1 5.3	1 5.3	0 0.0	0 0.0	2 10.5	15 78.9	0 0.0		
		女性	38 100.0	1 2.6	1 2.6	4 10.5	2 5.3	3 7.9	27 71.1	0 0.0		
	35～39歳	男性	33 100.0	1 3.0	0 0.0	4 12.1	3 9.1	2 6.1	22 66.7	1 3.0		
		女性	59 100.0	1 1.7	2 3.4	5 8.5	5 8.5	2 3.4	43 72.9	1 1.7		
	40～44歳	男性	32 100.0	1 3.1	2 6.3	2 6.3	1 3.1	2 6.3	24 75.0	0 0.0		
		女性	71 100.0	1 1.4	3 4.2	3 4.2	4 5.6	4 5.6	55 77.5	1 1.4		
	45～49歳	男性	43 100.0	0 0.0	0 0.0	1 2.3	2 4.7	3 7.0	35 81.4	2 4.7		
		女性	61 100.0	0 0.0	2 3.3	6 9.8	5 8.2	8 13.1	40 65.6	0 0.0		
	50～54歳	男性	40 100.0	0 0.0	0 0.0	3 7.5	3 7.5	4 10.0	29 72.5	1 2.5		
		女性	50 100.0	0 0.0	3 6.0	6 12.0	3 6.0	5 10.0	33 66.0	0 0.0		
	55～59歳	男性	35 100.0	1 2.9	2 5.7	3 8.6	2 5.7	3 8.6	22 62.9	2 5.7		
		女性	63 100.0	1 1.6	2 3.2	6 9.5	6 9.5	6 9.5	39 61.9	3 4.8		
	60～64歳	男性	56 100.0	1 1.8	0 0.0	5 8.9	3 5.4	1 1.8	43 76.8	3 5.4		
		女性	65 100.0	1 1.5	0 0.0	7 10.8	2 3.1	2 3.1	48 73.8	0 0.0		
	65～69歳	男性	46 100.0	2 4.3	1 2.2	2 4.3	1 2.2	3 6.5	33 71.7	4 8.7		
		女性	75 100.0	1 1.3	1 1.3	4 5.3	3 4.0	4 5.3	58 77.3	4 5.3		
	70～74歳	男性	61 100.0	0 0.0	1 1.6	8 13.1	1 1.6	4 6.6	42 68.9	5 8.2		
		女性	87 100.0	3 3.4	0 0.0	4 4.6	2 2.3	9 10.3	61 70.1	8 9.2		
	75～79歳	男性	29 100.0	0 0.0	0 0.0	1 3.4	4 13.8	4 13.8	17 58.6	3 10.3		
		女性	53 100.0	1 1.9	0 0.0	2 3.8	2 3.8	1 1.9	32 60.4	15 28.3		
	80歳以上	男性	36 100.0	1 2.8	1 2.8	2 5.6	2 5.6	4 11.1	21 58.3	5 13.9		
		女性	62 100.0	0 0.0	0 0.0	1 1.6	3 4.8	1 1.6	42 67.7	15 24.2		

◆表 ブロック別◆

	サンプル数	ゲートキーパー研修を受けたことがあり、知っている	研修を受講したことがあり、研修を受講したいと思う	研修を受講したことがあり、研修を受講したいと思うが、	研修を受講したことがあり、研修を受講したいと思うが、	研修を受講したことがあり、研修を受講したいと思うが、	研修を受講したことがあり、研修を受講したいと思うが、	研修を受講したことがあり、研修を受講したいと思うが、	研修を受講したことがあり、研修を受講したいと思うが、	無回答
全 体	1,275 100.0	20 1.6	26 2.0	99 7.8	71 5.6	80 6.3	901 70.7	78 6.1		
ブロック別	東部A	91 100.0	0 0.0	1 1.1	8 8.8	4 4.4	71 78.0	3 3.3		
	東部B	80 100.0	0 0.0	1 1.3	2 2.5	6 7.5	4 5.0	57 71.3	10 12.5	
	北部A	113 100.0	1 0.9	2 1.8	7 6.2	4 3.5	5 4.4	88 77.9	6 5.3	
	北部B	72 100.0	1 1.4	2 2.8	6 8.3	3 4.2	9 12.5	47 65.3	4 5.6	
	中央東部	140 100.0	4 2.9	4 2.9	9 6.4	6 4.3	6 4.3	105 75.0	6 4.3	
	南東部	108 100.0	1 0.9	2 1.9	16 14.8	4 3.7	6 5.6	73 67.6	6 5.6	
	中央部	177 100.0	2 1.1	4 2.3	14 7.9	15 8.5	17 9.6	117 66.1	8 4.5	
	中央南部	205 100.0	9 4.4	5 2.4	16 7.8	13 6.3	14 6.8	138 67.3	10 4.9	
	南西部	125 100.0	1 0.8	0 0.0	8 6.4	7 5.6	5 4.0	95 76.0	9 7.2	
	西部A	55 100.0	1 1.8	2 3.6	2 3.6	2 3.6	5 9.1	36 65.5	7 12.7	
	西部B	74 100.0	0 0.0	1 1.4	5 6.8	5 6.8	3 4.1	55 74.3	5 6.8	

1. 報告事項 (2)セーフコミュニティに関する実態調査及び市民意識調査の結果について(資料3)

令和3年度久留米市民意識調査結果(速報)について

久留米市民意識調査のうち、セーフコミュニティに関する項目について報告する。

報告書は現在編集中のため、単純集計結果のみの報告である。

表中の集計結果の単位は%、参考のため、過年度調査の単純集計結果を付記。

1. 久留米市民意識調査

(1) 調査の目的

変化する市民意識の動向と現在の多様な市民ニーズを統計的に把握し、今後の市の施策・事業の検討、推進、評価の基礎データとして活用するため

(2) 調査の概要

* 調査対象者・・・久留米市に在住する満18歳以上の人

* 抽出方法・・・住民基本台帳から、性別・年齢・地域の人口構成比に基づき5,000人を無作為に抽出

* 調査方法・・・調査票を郵送し、郵送又はインターネットで回収を行う

* 調査期間・・・令和3年7月27日～8月16日

* 回収数(率)・・・2,194票(43.9%)

内、郵送1,718票、インターネット476票

(3) 調査テーマ

- ①行政施策、②セーフコミュニティ、③地域コミュニティ活動、④広報、
⑤在宅医療、⑥新型コロナウイルス感染症の影響

自殺予防に関すること

問 34 あなたは、ここ 1 か月くらいの間に、心の不安や悩み、ストレスを抱えたことがありますか。(あてはまる番号 1 つだけ) (回答者数 2,194 件) (無回答 1.7%)

		H23	H26	H29	R3
1	大いにある	-	-	19.9	16.8
2	多少ある	-	-	42.3	39.3
3	あまりない	-	-	29.6	31.9
4	まったくない	-	-	7.0	10.3

付問 1 問 34 で 1. または 2. と回答した人に

それはどのようなことが原因ですか。(あてはまる番号 いくつでも)

(回答者数 1,230 件) (無回答 2.0%)

		H23	H26	H29	R3
1	家庭に関すること (家族関係、子育て、家族の介護など)	-	-	43.6	44.3
2	健康に関すること (身体・こころの病気など)	-	-	40.6	52.5
3	経済的な問題に関すること (金銭関係など)	-	-	35.7	34.6
4	仕事に関すること (仕事の悩み、職場の人間関係など)	-	-	47.4	43.3
5	恋愛、結婚に関すること	-	-	6.3	5.3
6	学校に関すること (学校での人間関係、進路など)	-	-	4.7	4.9

問 35 あなたが、心の不安や悩み、ストレスを抱えた場合、誰に相談しますか。

(あてはまる番号いくつでも) (回答者数 2,194 件) (無回答 0.9%)

		H23	H26	H29	R3
1	同居の家族や親族	－	－	56.0	63.4
2	別居の家族や親族	－	－	25.9	30.4
3	友人・知人	－	－	49.9	43.5
4	学校の先生	－	－	1.3	0.8
5	学校のカウンセラー	－	－	0.6	0.5
6	職場の上司・同僚	－	－	14.4	11.5
7	職場の健康管理センター	－	－	0.3	0.5
8	医療機関	－	－	9.1	13.7
9	薬局	－	－	0.6	0.8
10	地域包括支援センター・基幹相談支援センター	－	－	1.8	1.3
11	民間ボランティアの電話相談	－	－	1.0	0.4
12	S N S 相談	－	－	－	0.5
13	民生委員・児童委員	－	－	1.2	1.0
14	市役所・保健所などの公的機関	－	－	2.9	3.1
15	相談する相手はいない	－	－	2.1	2.8
16	相談しない	－	－	9.3	8.2

問 36 あなたが、心の不安や悩み、ストレスを抱えた場合、誰かに相談したり助けを求めたりすることに、ためらいを感じますか。(あてはまる番号 1 つだけ)

(回答者数 2,194 件) (無回答 1.0%)

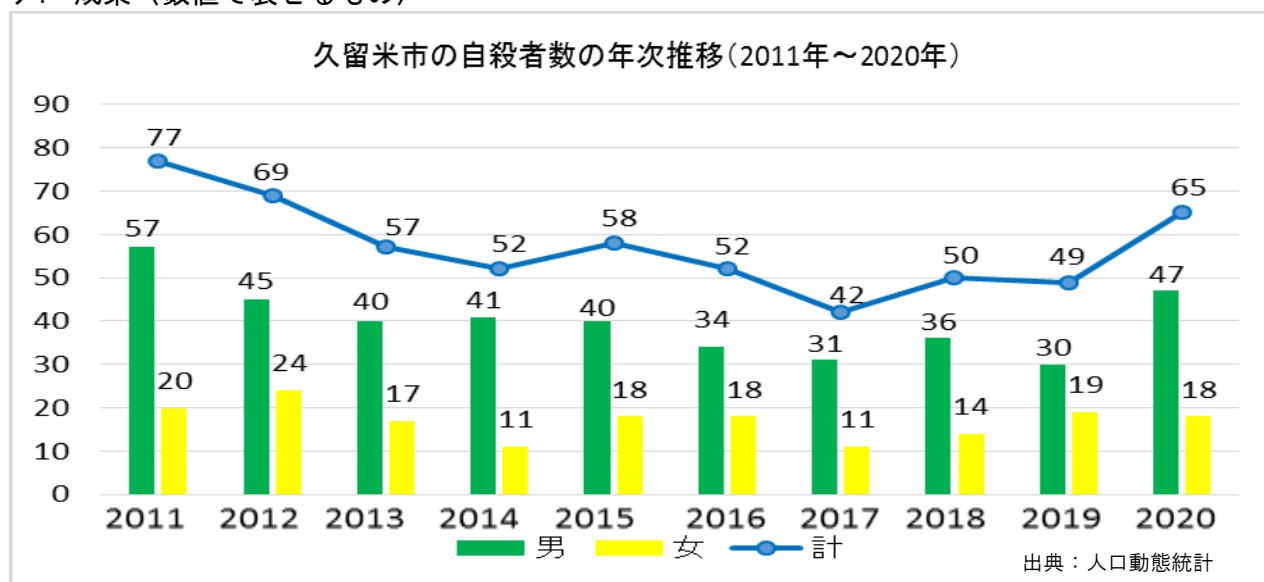
		H23	H26	H29	R3
1	感じる	－	－	16.0	15.7
2	どちらかといえば感じる	－	－	33.9	35.8
3	どちらかといえば感じない	－	－	20.5	21.5
4	感じない	－	－	19.6	20.3
5	わからない	－	－	7.6	5.7

2. 協議事項（1）2021（令和3）年度実績及び2022（令和4）年度方針（案）について（資料4）

自殺予防対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
自殺・うつ病の予防	7-①	自殺予防に関する普及啓発活動の実施
	7-②	かかりつけ医と精神科医の連携強化
	7-③	子ども・若者の自殺対策の推進
	7-④	民間団体と協働した相談の実施
	7-⑤	生活困窮者からの相談支援

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



イ. 成果〈数値で表せないもの〉

ゲートキーパー・自殺予防の啓発活動の広がり

- ・地域におけるゲートキーパーや自殺予防の認識が深まった。市民団体等の自主的な活動が継続して行なわれている。
- ・市立中学校・高等学校の生徒向けに「SOSの出し方教育」を実施。併せてSOSを受けとめる教職員への啓発を実施。

かかりつけ医・精神科医の顔の見える関係づくりとネットワークの強化

- ・「かかりつけ医と精神科医の連携システム（久留米方式）」として、認知が広がっている。

関係団体との連携強化

- ・自殺予防週間や自殺対策強化月間等に、教育機関や関係団体と連携した啓発活動等を行った。
- ・民生委員やまちづくり連絡協議会、老人クラブなどを通じて地域住民への声かけ運動を行った。

相談体制の充実

- ・より多くの市民が相談できるよう、様々な相談に対応できる体制、相談窓口の充実を図った。

自殺対策の課題と目標を関係機関で共有

- ・自殺対策計画策定3年目であり、関係機関と課題や目標を共有し、自殺対策の方向性を確認した。

ウ. 2021 年度の取り組みで最も成功した事例

関係機関と連携した普及啓発活動

- ・コロナ禍による影響で直接的な啓発に制限があった中、関係団体と連携してポスター貼付や啓発物の窓口設置等の啓発活動等を行った。

かかりつけ医と精神科医の連携強化

- ・DVD 視聴研修とハイブリット研修（対面研修とオンライン研修の同時開催）を実施。
- ・ハイブリット研修では、自殺未遂者支援の必要性について共有し、医療連携体制の整備及び地域支援ネットワークの構築を推進した。

子ども・若者の自殺対策

- ・「SOS の出し方教育」を専門のプログラムやノウハウを持つ民間団体と連携し全市立中学校 17 校、全市立高等学校 2 校で実施した。実施後のアンケートでは生徒や教職員より「SOS を出すこと」や「出された SOS に気づくこと」に対する前向きな意見が多く聞かれた。

エ. 2021 年度で最も積極的に取り組んだ活動

コロナ禍における普及啓発の強化

- ・新型コロナウイルス感染症を理由とする自殺者を 1 人も出さないため、市長からのメッセージの発信、年末における生活・法律・こころの相談会の増設などを実施した。

子ども・若者向けの自殺対策

- ・2020 年の全国における小中高生の自殺者数が過去最多の 499 人（2019 年 399 人）となったことから、子ども・若者向けの自殺対策として、SOS の出し方教育の全校実施、相談窓口（SNS、電話等）の周知、子どもを支える周囲の大人（教職員、保護者等）に対する啓発活動、若者向けメンタルヘルス研修会を実施した。

オ. 分野横断的に行っていること

関係機関等と連携した活動

- ・司法書士会やハローワークと連携した相談会、民間団体へ相談窓口の委託
- ・生活自立支援センター相談窓口での、様々な関係機関と連携した対応
- ・関係機関と連携した啓発活動、ゲートキーパー研修等の実施
- ・SOS の出し方教育の民間団体への委託

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

ゲートキーパー・自殺予防に関する知識の浸透

- ・地域の多様な資源と連携し、自殺予防の正しい理解、ゲートキーパーの普及に取り組む。

支援体制の充実

- ・適切な医療や支援を受けられる体制の整備。
- ・地域の相談体制の更なる充実。
- ・関係機関相互の連携した相談支援。

子ども・若者の自殺対策の推進

- ・自殺が死因の第 1 位である子ども・若者へ向けた自殺対策の推進。

中高年男性への取組

- ・中高年男性が相談しやすい体制を構築していく。また、職域団体等と連携し、職場におけるメンタルヘルス対策の取組みを進める。

コロナ禍における自殺対策

- ・コロナ禍による経済・生活面への影響の長期化が懸念される。引き続き社会情勢の動向と自殺者数の推移を注視してタイムリーでかつニーズにあった自殺対策を展開する。

自殺予防対策委員会

具体的施策		2022 年度取り組み方針
7-①	自殺予防に関する普及啓発活動の実施	<u>ゲートキーパーや自殺予防の知識の普及</u> ・従来実施している、ゲートキーパーや自殺予防の知識の啓発に加えて、アフターコロナを意識したこころのケアの啓発を実施する。 <u>各団体と連携した普及啓発</u> ・自殺予防週間や自殺対策強化月間などの機会を捉えて、各団体や委員と連携し普及啓発活動に取り組む。また、庁内の関係部署や民生委員・まちづくり連絡協議会などの地域団体と連携して普及啓発に取り組む。
7-②	かかりつけ医と精神科医の連携強化	<u>かかりつけ医・精神科医の連携強化</u> ・かかりつけ医から精神科医へ紹介された患者の実態把握及び研修会等の継続実施を行う。 ・研修会の開催にあたっては、医師会と連携しながら、地域全体への一層の浸透を図る。
7-③	子ども・若者の自殺対策の推進	<u>SOS の出し方教育</u> ・SOS の出し方教育を実施し、SOS が出せるよう支援すること及び、教職員など周囲がSOSを受け止めることができるよう啓発を行う。 <u>子ども・保護者へ向けた啓発活動</u> ・相談先等を掲載した啓発物「はなそうカード」等を、SOS の出し方教育実施校をはじめ、学校関係を中心に配布し、相談先の周知を行う。 ・長期休暇前に、保護者や生徒へ向けて、相談先やサインなどの情報提供を行う。 <u>若年層への自殺対策</u> ・大学などの教育機関、職域団体へアプローチを行い、こころの健康づくりや相談先の周知など、生きづらさに対する対策の啓発を行う。
7-④	民間団体と協働した相談の実施	<u>生活・法律・こころの相談会</u> ハローワークにおいて、雇用、労働条件、借金問題などの悩みやそれらに起因する心の健康問題について相談会を継続して実施する。 有職者等多くの人に相談会を利用してもらえるよう、全4回のうち、2回夜間に開催する。 <u>こころの相談カフェ</u> 臨床心理士等の専門のカウンセラーに気軽に相談できる場として、市民にとって身近な場所に相談窓口を継続して開設する。
7-⑤	生活困窮者からの相談支援	引き続き、相談者を必要な制度につなぎながら、伴走して支援を行い、困りごとの軽減につなげていく。コロナ禍の状況を注視し、相談者の状況に応じて、住居確保給付金などの給付制度や、社会福祉協議会の生活福祉資金貸付制度などを適切に案内する。

自殺予防対策委員会

【自殺・うつ病の予防】7ー① 自殺予防に関する普及啓発活動の実施								
課題	客観的課題	・幅広い世代で、死亡原因（病死を除く）の1位は「自殺」である ・自殺者の7割が男性で50歳代が最も多く、女性の自殺者は減少することなく推移している						
	主観的課題	市民の多くが相談することによりためらいを感じており、誰もがSOSを出せる環境の整備が必要						
目標		市民一人ひとりの気づきと見守りを促す						
内容		身近な人の変化に気づき、適切な対応を図ることができる「ゲートキーパー」の啓発を行い人材の育成を図るとともに、相談窓口等の周知を行う。 関係機関が自殺対策連絡協議会を通じて、自殺の現状と各団体での自殺対策取組みを共有し、啓発活動に取り組む。						
対象者		市民、民生委員等の地域組織、理容師						
実施者		市、自殺対策連絡協議会やセーフコミュニティ自殺予防対策委員会の委員						
対策委員会の関わり		対策委員会での意見を基に、啓発物の作成・改訂を行っている。 自殺対策連絡協議会には、自殺予防対策委員会の委員も入っており、積極的な意見や提案により、他団体の意識向上につながっている。						
2021年度の実績 及び 改善した点等		○ 実績 【ゲートキーパーの啓発実績】 啓発回数 48回 啓発人数 3,719人 ・かかりつけ医 2回 1,107人（資料及びDVD配布、ハイブリット研修） ・市職員 1回 161人 ・生徒 19回 1,661人 ・教職員 19回 540人 ・その他出前講座等 7回 250人 【関係機関等への啓発物の配布実績】 ・対策委員会・連絡協議会：61機関・2,526部（自殺予防週間） ・関係機関： 490機関・34,320部（窓口一覧、事業紹介等の啓発物） ※2020年度より対策委員会・連絡協議会以外の関係機関への啓発物を含める。 【自殺対策連絡協議会】 ・書面協議にて1回開催、47団体参加、96%が市の自殺対策やコロナ禍における課題について「理解できた」と回答。 ○ 改善した点 ・学内ポータルサイトでの情報発信やLINE投稿などSNSを活用し、幅広い対象者への周知啓発活動を行った。						
2022年度の方針 及び課題等		引き続き、社会情勢に合わせた啓発を多面的、継続的に行うことにより、ゲートキーパーや相談窓口などの自殺予防に関する知識を浸透させていく。						
指標		内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021
活動指標	①ゲートキーパー啓発回数、人数	回		46	68	68	85	48
		人		2336	2413	3327	2836	3719
	②啓発協力団体数（配布箇所）、配布部数	団体		59	59	61	553	551
		部数		179	2309	2684	12996	36846
【短期】認識・知識	参加者の意識変化[参加者アンケート] 「ゲートキーパーについて理解できた」と回答した人の割合	%		87.7	94.1	92.0	97.9	88.6
【中期】態度・行動	市民からのうつ・自殺に関する相談件数 [精神保健相談]	相談者		131	96	90	93	74
		関係機関		46	54	56	13	23
【長期】状況	①自殺者数[人口動態統計]	人		42	50	49	65	－
	②自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	出動数		107	100	102	108	117
		死亡数		28	26	32	32	38

【自殺・うつ病の予防】7ー② かかりつけ医と精神科医の連携強化							
課題	客観的課題	・自殺者の7割が男性で50歳代が最も多く、女性の自殺者は減少することなく推移している ・自殺既遂者は、精神科既往歴の割合が低い					
	主観的課題	うつ病の早期治療や未遂者支援などによる医療の連携が必要					
目標	適切な医療を受けられる体制づくり						
内容	内科等のかかりつけ医と精神科医が連携を強化することにより、うつ病の早期発見、早期治療のみならず医療連携体制の整備及び地域支援ネットワークの構築を図る。						
対象者	内科等のかかりつけ医、精神科医、産業医など						
実施者	医師会、市						
対策委員会の関わり	かかりつけ医・精神科医連携研修検討会には自殺予防対策委員会の委員も入っており、積極的な意見や提案がなされている。						
2021年度の実績 及び 改善した点等	○ 実績 【研修会の実施】 開催回数：2回（筑後地区一円の8医師会共催） 第1回 DVD視聴研修 「コロナワクチンとメンタルヘルス～うつ・アルコール・自殺対策をふまえて～」 筑後8医師会や保健所、大学等に研修教材を計1,000部配布 第2回 ハイブリット研修 「久留米市における自殺の現状～自殺未遂者支援の必要性について～」 WEBと会場を含めて107名参加 <参加者アンケート> 「研修前と比べて理解が深まったか」との項目に対して、 「とても」「まあまあ」と回答した人が1回目、2回目 ともに100%であり、研修会の理解度は高かった。 【かかりつけ医・精神科医連携件数】 令和3年度：1,005件（12月末時点） 平成22年度からの累計：12,987件 （久留米方式として全国的に認知されている） ○ 改善した点等 ・うつ病や自殺未遂者等の早期発見・早期治療のみに限らず、医療連携体制の整備及び地域支援ネットワークの構築を推進することを目的として、救急医療に従事する医師・ソーシャルワーカー等、警察・消防関係、市役所関係部署も研修会の対象とした。 						
2022年度の方針 及び 課題等	かかりつけ医・精神科医連携報告に「未遂歴の有無」の記載項目を追加し、患者の実態把握、及び自殺未遂者の分析につなげる。 医師会と連携した研修（オンライン、またはハイブリット）を実施し、地域全体への一層の浸透を図る。						
指標	内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021
活動指標	かかりつけ医うつ病アプローチ研修の開催回数、受講者数	回	2	2	2	1	2
		人	260	357	397	1000	1107
【短期】認識・知識	参加者の意識変化[参加者アンケート] 「本日の研修会におけるテーマについて、研修前と比べて理解が深まりましたか。」	1(%)	93.3	96	99.1	98.5	100
		2(%)	98	98.7	99.0		100
【中期】態度・行動	①うつ病を疑い精神科医に紹介した件数	件	1363	1519	1422	1085	1005 12月末時点
	②うつ病と診断された人の人数と割合 [うつ病アプローチ研修集計]	人	395	480	373	326	307 12月末時点
		%	28.9	31.6	26.2	30.0	30.5
【長期】状況	①自殺者数[人口動態統計]	人	42	50	49	65	－
	②自損行為による救急出動数と死亡数[救急搬送データ]	出動数	107	101	103	108	117
		死亡数	28	26	32	32	38



【自殺・うつ病の予防】7ー③ 子ども・若者の自殺対策の推進

課題	客観的課題	・39歳以下の若年層で「自殺」が死亡原因（病死を除く）の1位 ・自殺に至る要因は複数あり、複雑に絡み合っている						
	主観的課題	子ども・若者の特性に応じた自殺対策を推進していく必要がある						
目標	39歳以下の若年層の自殺を防ぐ							
内容	・SOSの出し方教育 児童・生徒が自己肯定感を高め、将来起きるかもしれない危機的状況に備えて、SOSが出るよう支援すること及び周囲がSOSを受け止めることができるよう啓発を行う。 ・子ども・若者への啓発 ストレスへの対応や相談先を周知・啓発し、セルフケアや相談行動へつなげる。							
対象者	39歳以下の一般市民							
実施者	市							
対策委員会の関わり	啓発物の設置など広報周知							
2021年度の実績 及び 改善した点等	○ 実績 【SOSの出し方教育】 ・実施校：38校（生徒向け19校、教職員向け19校） ・受講生徒：1,661人、受講教職員：540人 授業の理解度は80%以上が理解できたと回答した。教職員向け研修では、90%以上が「理解できた」、「参考になった」と回答した。 【子ども・若者への啓発】 ・学校教育課と連携し、保護者向けチラシ14,923枚、児童・生徒向け啓発カード6,255枚を配布した。また、民生委員や児童委員へも啓発カード配布。 ・大学等と連携した普及・啓発 市内の大学3か所の学生ポータルにてこころのケア・相談先の周知・啓発、市立図書館にてストレスケアに関するパネルを展示 【若者向けメンタルヘルス研修会】 ・新型コロナウイルス感染症の影響で休校やオンライン講義が続く中で、ストレスを抱えた生活を送っている学生に対するメンタルヘルスに関する研修会の実施。 ○ 改善した点等 ・SOSの出し方教育の実施校を拡大。全市立中学校及び高等学校で実施。 ・大きなストレスがかかりやすく、自殺のリスクが増大する長期休暇明けに備えるため、自殺対策啓発を長期休暇明けから長期休暇前に前倒して実施。 ・若者向けメンタルヘルス研修会を実施。 							
2022年度の方針 及び 課題等	SOSの出し方教育は学校教育課と連携し、中学校を中心に生徒向け授業と教職員向け研修を引き続き展開する。 生徒、教職員、保護者等と対象別に分けた啓発を行う。大学などの教育機関との連携を図り、高等学校卒業後の若年層への啓発を展開する。							
指標	内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021	
活動指標	①SOSの出し方教育実施校、参加者数	校	—	1	5	16	38	
		人	—	120	819	1420	2201	
	②子ども・若者関連啓発物配布数	部	—	120	4597	46300	6255	
【短期】認識・知識	参加者の意識変化[参加者アンケート] 「授業・研修について理解できた」と回答した人の割合	%	—	93.4	90.6	85.4	90.0	
【中期】態度・行動	①39歳以下に関する精神保健相談	件	347	278	229	269	320	
	②小中高生に関する相談（子どもサポートセンター） 結らいん（小中高生から）の相談	件	125	324	267	164	214	
		件	—	7	44	24	14	
【長期】状況	①20歳未満の自殺死亡率※		3.42	13.69	1.74	3.50	—	
	②20～30歳代の自殺死亡率※		12.92	12.96	13.42	27.23	—	

※自殺死亡率とは：人口10万人当たりの自殺者数

【自殺・うつ病の予防】7ー④ 民間団体と協働した相談の実施							
課題	客観的課題	・幅広い世代の中で、死亡原因（病死を除く）は「自殺」が最多 ・自殺に至る要因は複数あり、複雑に絡み合っている					
	主観的課題	・市民の多くが相談することにためらいを感じており、全世代に対し、自殺に対する知識・情報を周知していく必要がある					
目標	民間団体との連携を強化する取り組み						
内容	・生活・法律・こころの相談会 自殺の要因となりうる、借金、多重債務、損害賠償などの社会問題や、それらの問題から発生する心の問題に対応するため、司法書士・保健師等による相談会をハローワーク及び保健所で実施する。 ・こころの相談カフェ 悩みを抱え込む前に気楽に相談できるよう、市民に身近な場所で、臨床心理士等のカウンセラーによる対面相談を実施する。（2016 年 8 月～岩田屋久留米店開設、2017 年 4 月～久留米市立中央図書館増設、2019 年 4 月～平日の窓口を市民活動サポートセンター移設）						
対象者	一般市民						
実施者	民間団体、市						
対策委員会の関わり	相談の開催などの広報周知						
2021 年度の実績 及び 改善した点等	○ 実績 【生活・法律・こころの相談会】 全 5 回実施 計 14 件（延べ 17 人） （当初 4 回の予定だったが、年末の自殺対策として 1 回増設） 【こころの相談カフェの開催】全 70 回 167 件（延べ 171 人） （内訳）※ 5 月、6 月、8 月の一部は電話相談で実施 ・市民活動サポートセンター： 第 3 以外の火曜日：14：00～17：00（40 回・101 件） 第 3 水曜日 ：17：30～20：30（12 回・24 件） ・久留米市立中央図書館： 毎月第 3 日曜日・偶数月第 1 日曜日：13：00～16：00（18 回・42 件） ○ 改善した点等 ・「生活・法律・こころの相談会」について、新型コロナの影響も含め、様々な課題を抱える多くの世代が相談会を利用しやすいよう、開催時間を一部（2 回/5 回）夜間に変更した。 ・「こころの相談カフェ」について、多くの人が相談しやすいよう、開設日時の変更を行った。 ①平日夜間の相談窓口（火曜日）をノー残業デーの曜日となることも多い水曜日に変更。 ②開設日を 3 つの曜日（火・水・日）に分散。 						
2022 年度の方針 及び 課題等	（生活・法律・こころの相談会） ・ハローワークの活用により様々な課題や、それらに起因するこころの健康問題について、相談しやすい環境を作る。 （こころの相談カフェ） ・コロナ禍における外出自粛の影響もあったためか、平日夜間の相談が、他の相談枠に比べて少なかった。毎月から隔月に減らし、平日日中に置き換える。						
指標	内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021
活動指標	①ハローワーク相談会の開催回数・参加人数	回	4	4	3	3	5
		人	19	14	13	5	17
	②こころの相談カフェの開催回数・参加人数	回	61	68	63	79	70
		人	217	215	187	168	171
【短期】認識・知識	参加者の意識の変化[参加者アンケート] カフェ利用者がポジティブな変化があったと回答した割合	%	76.5	71.4	83.3	82.6	77.7
【中期】態度・行動	市民からのうつ・自殺に関する相談件数 [精神保健相談]	相談者	131	96	90	93	74
		関係機関	46	54	56	13	23
【長期】状況	① 自殺者数[人口動態統計]	人	42	50	49	65	－
	②自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	出動数	107	101	103	108	117
		死亡数	28	26	32	32	38



【自殺・うつ病の予防】 7ー⑤ 生活困窮者からの相談支援								
課題	客観的課題	・自殺の要因となる経済的な問題や家庭の悩み、精神的な病気などを抱えている相談者が多い ・相談者の中には、過去自殺未遂歴をもつ者やこれまでに自殺企図、希死念慮をもつ相談者もあり、自殺企図・希死念慮を課題にもつ相談者アセスメント上の分類では 3%程度であるが、相談する中で「死にたい程に苦しい」等の言動まで含むとさらに増える						
	主観的課題	自己肯定感が低い人、社会的に孤立している人も非常に多く、市民のさまざまな課題、困りごとに対する支援体制を構築していく必要がある						
目標		相談のつなぎ元となる入口や、また多様な出口の支援のために連携先を増やす						
内容		生活に困りごとを抱えている相談者に伴走しながら支援を行い、困りごとのひとつひとつを解決に向けてともに相談していく。またつなげる連携先・制度等があれば伴走しながら、しかるべき支援につないでいく。						
対象者		生活に困りごとを抱えている一般市民						
実施者		久留米市生活自立支援センター（担当課：生活支援第2課）						
対策委員会の関わり		・久留米市庁舎内外に案内リーフレット配布 ・高齢（地域包括支援センター）部門、障害部門との相互連携 ・ハローワーク他の就労支援機関等との相互連携 ・自殺予防対策委員会にて、生活自立支援センターの相談状況を報告、評価検討している。						
2021 年度の実績 及び 改善した点等		○ 実績 ・新規相談受付件数 2,044 件 ・プラン作成件数 1,051 件 ・就労支援対象者数 354 件 ・就労・増収者数 67 人 ※プラン作成以下の件数について、新型コロナウイルス感染症の経済影響を受け、相談窓口が混雑している。その負担軽減のため、厚生労働省よりプラン作成の最低基準が緩和され、プラン作成以下の実績件数が例年に比べ少ない。 ○ 改善した点等 新型コロナウイルス感染症による経済影響から困窮者支援が課題となっており、引き続き社会福祉協議会での貸付制度や新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金、住居確保給付金などの各種給付制度と連携し、各窓口と連携して相談支援を行うことができた。						
2022 年度の方針 及び 課題等		引き続き、相談者を必要な制度につなぎながら、伴走して支援を行い、困りごとの軽減につなげていく。コロナ禍の状況を注視し、相談者の状況に応じて、社会福祉協議会での貸付制度や新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金、住居確保給付金などを適切に案内する。						
指標		内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021
活動指標		新規相談受付件数	件	887	1020	1131	2790	2044
【短期】認識・知識		うち関係機関等から繋がった件数 [支援入りロデータ]	件	396	421	446	432	1051
【中期】態度・行動		自立相談支援事業における支援計画策定数及び支援終結件数 [支援プランデータ]	計画	513	659	793	886	354
			件	190	223	367	105	182
【長期】状況		自殺者数[人口動態統計]	人	42	50	49	65	－
		自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	出動数	107	101	103	108	117
			死亡数	28	26	32	32	38